

Biz Life Style

[ビズスタ東京]

2017 04

特別版

『BizLifeStyle』は東京、神奈川、名古屋、関西、京都・滋賀、仙台、福岡、広島にて62万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作 / 株式会社デイリースポーツ案内広告社
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F
© 2017 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



「愉しみとしての音楽」は、
125年前の銀座から始まった。

日本に西洋音楽を伝えたのは、優れた音楽家たちだけではない。
市井の人々に音楽の魅力を届けた不屈の事業家の足跡を振り返る。

My Favorite Life Style



Biz Life Style Pick up >>> 日本人と西洋音楽は、「銀座で出会った」



右の写真は本店の外観で、1930年に撮られたもの。上の2枚は、いずれも1970年代の本店の様子。右の壁には「グループサウンズ」のディスプレイが見えるので、1970年代の初めころだろうか。なお、表紙の写真は、1915年ごろに撮影された「山野楽器店」設立時、震災前の本店の様子。こうして並べると、大震災に遭っても、戦火で燃えても、そのたびに再建してきたことがよく分かる。私たちは、音楽を空気のように感じているが、これだけの苦労を重ねて少しずつ裾野が広がってきたのだと実感する貴重な資料群だ。

震災で倒れても、空襲で焼け落ちようとも、

七転び八起きの「不屈の精神」は私たちが現代のビジネスハレーションもせいぜい覚悟したといえる。その執念は、戦後も衰えることがなかった。1954年「も」と多くの人々に気軽に足を運んで欲しい」と願い、百貨店への出店を開始。その3年後には、「も」のための音楽教室の運営を始める。当初はヤマハ音楽教室だったのだが、この新しいビジネスは、多種多様なコースを展開する。その後の山野楽器の事業カラムを決定づけたと言える。

同時に、店舗の拡大にも注力を続けた。1967年、1000㎡を超える売場に音楽教室、小ホールなどを併設した本店ビルが完成。こうして日本の庶民層に音楽の愉しみを広めた山野氏は、その2年後、惜しまれつつの世を去る。

世界に誇れる「楽器の聖地」として

山野楽器は、その後も順調な発展を遂げる。現在の楽器店とは違う。現在は「楽器店」の概念がなくなってきた。楽器店とは、楽器専門店のことを指す。1980年後半のころは、ギター＆ベース・ドラムといったジャズやロック向けの楽器だけでなく、ピアノはもちろん、ビッグバンドや吹奏楽、オーケストラまで対応可能な専門店としての信頼は、現在の銀座本店となる新本店ビルが完成した90年代初頭に不動のものに、その後各地に支店や専門店を設置し、昨年には銀座本店に匹敵する規模の仙台店をオープンさせた。また、ますます業容を拡大している。

ここで、専門店として新築してきたが、実際には店内に入れば、確かに何でも揃っている。むしろ、思い通りに買えない。中でも銀座本店の充実度は凄まじい。ピアノ、ギター、ベース、フルート、クラリネット、サックス、鼓、パーカッション、電子楽器、オーディオ機器、楽器の部品、修理など。この店の在庫数や品揃えの幅広さは世界最大級を誇る。ここで、また、



本店2階の管楽器売場(左)とレコード売場(右)。ディスプレイから察するに、1984年の春ごろだろうか。この当時の山野楽器は「レコードの聖地」でもあった。

奏者御用達のフロアとなっている。そのうち、6階のピアノフロアがこれまた凄い。ヤマハ製グラントラを中心としたハイエンドピアノやスタインウェイといった世界の銘器が展示されているのだが、試弾も可能となっている。品揃えは、もちろん、ピアノを気軽に弾ける店は、まだまだ少ない。それは、山野楽器には、楽器ごとに専門の修理職人が在籍し、調整や調律にも対応。購入後のメンテナンスといったサポートの充実度は世界的に有名なレベルで、世界的に有名なアーティストやオーケストラ団員らが来店時に来店するところから本物だ。

音楽ソングのデジタル配信が台頭した現代では、国内におけるCDの売行も減少傾向にある。だが、最近ではレコードプレーヤーが再び脚光を浴びるなど、ディスク復権の兆しも見られる。山野楽器はSPL時代の時代から音楽ソングの品揃えでも有名だ。

楽器店ではあるが、楽器の販売だけではなく、そんな同社の現在の姿は、次ページで紹介しよう。



日本人に伝えたい「音楽の愉しみ」。

若き事業家が見た「音楽の愉しみ」

山野楽器の前身である「松本楽器」が創業したのは、1900年のこと。当時はピアノやオルガンを製造していたのだが、やがて転機が訪れる。明治末期の1909年、山野政太郎やまのまさたつ氏が代表社員に就任し、同社の歴史は大きく転換する。

山野氏は、もともとアメリカでビジネスを展開していた事業家だった。米国から帰国する船で船上パーティーの様子を見て衝撃を受ける。多種多様な楽器を奏で楽しむに過している乗客の姿が、「音楽が通じなくても、音楽ならコミュニケーションが取れる」と確信した同氏は、西洋音楽を日本で普及させたいという思いを抱えて帰国。松本楽器は、まさに格好の活躍舞台となつたわけだ。

ラジオやレコードなどのオーディオ系機器の発展や、楽団支援や

音楽ファンはもちろんだが、都心を活動フィールドとするビジネスパーソンであれば、「山野楽器」の名は頻りに目にしているはず。銀座界隈を歩く際のランドマークであるが、公示地価では常に高額ランキングの上位に位置するのだから、同じ会社が本店を構える場所だからだ。

楽器店は街を歩いていてもよく見かけるが、行きつけを持つ愛好家でもない限り、どの店を選ぼうと迷ったりの。そんな時、相談相手の多くがあの店なら間違いない」と本誌をおぼすのが、山野楽器だ。でも、その評判を聞きながら、逆に少し敷居が高く感じられることもあるかもしれない。

だが、たとえ楽器を学んだ経験がなくても、日本在住で音楽が大好きなら、何らかの形で接点があるはずの企業。今年で創業150周年を迎えたが、今回は日本の音楽文化の発展を支えてきた同社の歴史をたどりながら、現在の絶大な信頼が築かれた理由を探ってみよう。

「ソナト開催」といった興行の歴史などはよく耳にするが、山野氏が奔走したのは、市民の人々でも楽器演奏やリスニングを愉しめるはずだ」という啓蒙活動に近いものだった。元号が大正に変わる1912年には、西洋音楽文化の普及活動の一環として「月間楽譜」を創刊。この雑誌は、後に野村光氏(音楽評論家)や堀内敏三氏(作曲家)が、現在の「音楽の友社」の礎を築くことになる。

松本楽器の経営立て直しを行ったその3年後、社名を「山野楽器店」として再出発する。自ら初代社長に就任し、1909年にはピアノ1番機種、1910年には「日本レコーダー」の売りさばき元となるなど、活動舞台をさらに広げていった。文字通り「ソナト」と読み流してしまいがちになるが、当時の山野氏のバイラティーは相当なものだった。1913年9月の関東大震災で店舗を消失するのとわずかに3か月後に事業再開へ準備を進め、1914年の空襲で再び被災してもすぐに仮営業所にて営業再開、2年後には本店を竣工、同社の沿革を眺めるには、ほんとに鬼気迫るような気迫を感じ



初代社長 山野政太郎 1913年撮影



商店包装紙 中央区立郷土天文館「タイムドーム明石」所蔵



合資会社山野楽器店楽器書目録 中央区立郷土天文館「タイムドーム明石」所蔵

写真左は「月刊楽譜」、1915年5月号。楽器の愉しみを伝えるには、楽譜に関する情報も前もって発信しなければならなかったのだ。上の2枚は、それぞれ包装紙(左)と取り扱い楽器の目録(右)。現在で言うカタログで、これは1918年のものだそう。



「東北初の山野楽器」となった仙台店(写真左)と、新宿区の管楽器専門店「ウインドクルー」(写真中)。このほか、「サウンドクルー 吉祥寺」「ギタースポット」など、1980年代から現在にかけて多彩な専門店を出店している。

写真右は、山野楽器が主催する「ヤマノ・ビッグバンド・ジャズ・コンテスト」の昨年の様子。第48回の今年には創業125周年を記念して、東京国際フォーラムで開催される。大学生が出演するコンテストイベントで、これまで延べ30,000人近くが参加。ハイライトの演奏を収録したCD音源も発売されている。

My Favorite Life Style

Be Happy with Music



25000名を超える会員が学ぶ音楽教室



音楽教室生徒が出演するイベント「Go!Do!LIVE」の様子(ブルーノート東京にて)



パーツにいたるまで国産にこだわったオリジナルギターブランド「Wisdom」



世界中から絶大な支持を集めるアコースティックギターブランド「Taylor」の国内流通を担う。



社会人、主婦、シニアなど大人がゆったりとくつろげるラウンジが用意された「ヤマノミュージックサロン」。写真は三鷹。

音楽を愉しむ上で 必要となる あらゆる要素が ひとつの店に

山野政太郎氏が夢見た「音楽に満ち溢れる日本」が実現した現代、四代目山野政彦氏に引き継がれた山野楽器は、誰もが演奏を愉しめる環境づくりに留まらず、人々をさらに深い音の世界へと案内する道を切り開いてきた。すなわち、「憧れの楽器」に近づく機会の提供だ。

世界の名品を日本の音楽文化へ

エレクトリックギターを嗜むなら、「ストラトキャスター」の名に聞き覚えのない人はいないだろう。山野楽器は、1963年に「フエント」社と国内独占販売契約を締結。1987年には「ギブソン」社とその後両社と解消)、2008年には「テイラー」社と総代理店契約を交わすなど、アコースティックギターの分野でも「流」を紹介し続けている。

ウクレレなら「コアラ」の総代理店を務め、弦楽器なら本場イタリアクレモナの工房などに毎年売場スタッフが赴き、買い付けを行っている。このように、あらゆるジャンルの国内製品、海外製品の販売を手がける一方、昨年にはオリジナルのギターブランド「ウイスタム」を発表。日本の職人の全面協力のもと、「世紀を軽く超える」楽器を扱い続けてきた知見のもと、徹底的にメイドインジャパンにこだわった意欲作だ。評判も上々なので、い

れはウイスタムをトレードマークにするギターヒーローが登場することになるだろう。

初心者もセブプロも学べる場所

山野楽器125年の歴史で「気通貫しているのは、「音楽の愉しみ」の提供。そのひとつが楽器やソフトの販売であるわけだが、もうひとつの柱は「場」の提供だ。

子どものための音楽教室に加え「大人のための音楽教室」を日本で初めて開設したのは実は同社だ。まったくの初心者でも、長いプランクがあっても、逆にプロに近い腕前があっても分け隔てなく、性別年齢も関係なく受け入れ可能な音楽教室は、学びのモチベーション維持まで視野に入っている。多種多様な発表会やユニット結成の機会を提供するのみならず、果ては生徒のライブの会場として何とあの「ブルーノート東京」や「東京芸術劇場」まで押さえるというのだから、半端ではない。

1970年に第一回が開催され、前身時代から数えて今年で48回目を迎える「ヤマノビッグバンドジャズコンテスト」なども含め、あらゆる角度から音楽ファンの裾野の拡大に尽力してきた山野楽器。125年の歴史の中で日本の社会はさまざまに形で揺れ続けたが、音楽への情熱はそのすべてを乗り越えられる。創業者山野政太郎氏を駆り立てた想いは、いまでは私たち一般人もごく普通に抱く感覚となった。

山野楽器は、音楽を始めた人へのすべてを歓迎してくれる。楽器探しも、日々の練習や相談も、メンテナンスマドバイスも、そして人に伝える機会も。世の中、多様なスタイルの店があるが、ここまで「音楽を愉しむ喜び」のすべてが揃う場というのは、実は珍しい存在ではないだろう。

音楽の愉しみを始めたい方は、性別・年齢・経験の有無を問わず歓迎。詳しくはWEBで。

銀座山野楽器 本店
東京都中央区銀座4-5-6 TEL.03-3562-5051(代表)
営業時間/10:30~20:00 ※火・水曜=10:30~20:30



東京メトロ「銀座」駅A9出口すぐ/東京メトロ「銀座一丁目」駅徒歩5分/都営浅草線「東銀座」駅徒歩5分/JR「有楽町」駅徒歩7分

山野楽器 検索
www.yamano-music.co.jp



イベント情報

サンシャイン ゴスペル/ウクレレライブ
6月18日(日) 会場:池袋サンシャインシティ噴水広場
第48回ヤマノ・ビッグバンド・ジャズ・コンテスト2017
8月12日(土)13日(日) 会場:東京国際フォーラム ホールA

スマホをかざすと動画が楽しめます!

- 1.無料アプリをインストール
AppStore / GooglePlayから【cocoar2】または【ココアル2】と検索。もしくはQRコードで検索!
- 2.アプリを起動してスキャン
COCOAR2を起動したら、左の写真が画面内におさまるようにスキャン!
- 3.動画「125秒で振り返る山野楽器125年の歴史」がご覧いただけます。

本動画サービスは2017年5月31日までとなります。